

寺田龍覇

「セレスボクシングスポーツジム所属プロボクサー」

兄弟と走り続けた日々 葛藤と決断が襲う

3人兄弟の次男として生まれ、3歳の時に父のすすめで、兄と妹と一緒に陸上競技を始めた寺田龍覇さん。当時は訳も分からず「父から走ってこい」と言われ、ただひたすらに走っていた」と振り返ります。「父はとても厳しい人ですが、試合に勝つとほめてくれる。でも負けると怖い」と寺田さん。日々走り続ける毎日でした。

小1で「陸上クラブ田川RC」に通い始め、本格的に陸上競技にうちこみます。父の指導も熱が入り、1日30km走ることも。着実に力はつき、数々の大会で優勝を重ね、陸上選手としての実力を伸ばしていきました。中学に上がる前、テレビで当時世界チャンピオンを3度



↑鹿兒島県の年代別マラソン大会で3兄弟ともに金メダルを獲得

防衛したプロボクサーの内藤大助選手を見て「謙虚な人で優しい感じなのに、試合になるとたちまち強くてかっこいい姿になる」と心打たれた寺田さん。それからボクシングへの夢も抱くようになり、陸上競技で結果を出せている自分、そしてこれまで厳しく指導してくれた父の思い、しかしボクシングをやりたい気持ちへの葛藤。寺田さんはプロボクサーの夢を心の内に秘めたまま、陸上競技を続けます。中学、高校と陸上競技と向き合い、力をつけていきました。

陸上二筋だった男が ボクシングに転進

大学では箱根駅伝の予選に出場できる流通経済大学(千葉県)に進学。箱根駅伝出場を目指します。しかし、試合で思ったタイムが出ず、苦悩する毎日。「やりたくない、これ以上やっても時間がもったいない」という気持ちが出てきたと言います。初めて感じた陸上競技での限界。そこで、もう一つの大きな夢であったボクシングの道へ踏み出そうと決断します。「これまで陸上競技で応援してくれた家族、特に父に打ち明けられる少し時間がなかった」と話す寺田さん。「最初は反対されました。それでも

ボクシングへの気持ちは変わらないことを伝えると、最後は応援すると言ってもらえました」と笑みを浮かべました。大学2年の冬、駅伝部を退部し、ボクシングへと転進。同じ左利きで戦い方が好きな岩佐亮佑選手が所属するセレスボクシングスポーツジムの門をたたきます。そして血を吐くような練習を耐え、今年10月、プロテストに合格。プロボクサーになる夢を叶えました。



→陸上競技時代から欠かさないランニング。海沿いをほぼ毎日20km以上走り込む

苦しい時こそ
笑顔!!



夢は日本人初の ライト級世界チャンプ

「これで、名だたるプロボクサーたちと同じ舞台に立てます」と武者震いする寺田さん。「練習も大事ですが、最も大切なのは体重管理や食事などの私生活」とプロとしての意識も高く持ち、今か今かとデビュー戦の日に向けて日々鍛錬を続けています。プロとしてのスタートラインに立った寺田さんの新たな夢は日本人初のライト級

世界チャンピオン。「ライト級は挑戦者が多く激戦ですが、その中で一番になることが家族への恩返し」と力を込めます。そのためにもまずはデビュー戦勝利を誓う寺田さん。これから世界チャンピオンを目指す挑戦の開始を告げるゴングが心の中で鳴り響いています。



→後援・協賛募集中。連絡先 ☎090-6173-1181 4 福永

もう一つの夢

陸上競技からボクシングへと全く違う勝負の世界へ挑戦する寺田龍覇さん。プロボクサーとなった今、彼にはさまざまな葛藤と大きな決断がありました。交差する2つの思いが1つとなり、寺田さんはボクシング世界チャンピオンへと走り出しました。

●寺田 龍覇(てらだ・りゅうは)
平成9年4月28日、福智町神崎生まれの23歳。金田小・中学校卒業後、希望が丘高校へ進学。流通経済大学(千葉県)2年の冬に陸上競技からボクシングへと転向。2020年10月13日にプロテストに合格。身長173センチ、体重68キログラム。階級はライト級で左ボクサー。得意技は、右フック。好きな選手はワシル・ロマチェンコ選手。

History of Ryuha Terada

ここでは寺田龍覇さんが今まで走り続けてきた人生のステップを紹介。陸上競技から始まり、プロボクサーへの道のりを振り返ります。

1997年4月28日

第6回世界陸上競技大会で鈴木博美選手がマラソンで金をとった年に生まれた寺田さん。3歳の時に、陸上競技を始める。



←父の指導で、3兄弟一緒に練習をする龍覇さん(一番左)

2009年

小1から「陸上クラブ田川RC」に通い、陸上競技に奮闘。小6時に内藤選手を見て、少しずつボクシングの夢が芽生え始める。



←県外の大会も多く参加し、小3時にハイフマンで優勝

2015年

安川電機を実業団日本一に導いた監督の指導を受けようと、駅伝部が創部わずか3年目の希望が丘高校(中間市)に進学。



←高3時に40km以上が参加する駅伝で、6区・区間4位

2020年

大学2年の10月、陸上競技に限界を感じ、もう一つの夢「ボクシング」を始める。令和2年10月13日にプロテストに合格。およそ2年半で、念願のプロボクサーとなる。



←「スパーリングを日々技術を磨き、デビュー戦の勝利を誓う」

to be continued...